



〒 915-0823  
 福井県武生市本町 10-2  
**大 寶 寺**  
 TEL/FAX (0778) 22-1682

### 永代経法要の御案内

六月二十五日(土)、二十六日(日)

例年のように、二日間にかけて永代経法要を務めます。この法要は故人の霊を末永く供養し、同時に本願念仏の教え、また、そのための道場である寺が永く栄えるようにという意味で永代経法要と呼ばれます。

今年(二十六日)の午後一時から山本源太夫一座の神楽舞の奉納がございます。

これは大正四年武生にて病死した伊勢太神楽講の親方、山本喜一郎氏の墓が大寶寺にあり、そのための供養の舞です。

また、知恩院布教師のご法話もございます。別紙にて貴家のご先祖を供養する日とおおよその時間帯をお知らせしますので、みなさまお誘い会わせてお詣りください。

なお、大寶寺南側の田中ラジオ店の土地の購入代金は皆

さまざまの永代経志納金をあてさせていただきます。この場を借りて、ご報告ならびに御礼申し上げます。

今年(伊勢大神楽講社の山本源太夫一座の神楽の舞をお楽しみいただけます。

日時 6月26日(日) 1時より



### 平成十七年

### 永代経法要

○ 六月二十五日(土)

- 午前九時半〜十一時 施餓鬼
- 午前十一時〜十二時 法話
- 午後一時〜三時 施餓鬼
- 午後三時〜法話

○ 六月二十六日(日)

- 午前九時半〜十一時 施餓鬼
- 午前十一時〜十二時 法話
- 午後一時〜二時 神楽奉納
- 午後二時〜四時 施餓鬼

### 第36回おつぎ信行奉仕団

さる5月31日と6月

1日の二日間浄土宗総本山知恩院にて、恒例のおつぎ信行奉仕団に参加しました。

今年は大寶寺からは

26名参加が参加し、大

野の善導寺さん、大阪の撰取院さんの檀信徒の皆さまとともに、総勢九十名あまりで法話を聞いたり、草取りをしたり、法然上人の御廟に参拝しました。



知恩院境内の草取り

現在、集會堂が工事中ということもあり、本来は皇室の方をお迎えするための勅使門(ちやくしめん)を通つて中に入りました。

京都伏見、天然寺の城平上人は穏やかな語り口で、マニュアル化された現代の生き方をユーモラスな実例を引いて批判なされ、「われがわれがのがを捨てて、おかげおかげのげで生きよ」と、感謝して生きることの大切さをお説きになりました。



阿弥陀堂にてお念仏と礼拝



知恩院仮玄關

「バカになれ！」翌日朝五時、知恩院の本堂で法然上人をおまつりしている御影堂(みえいどう)の晨朝法話では、八十六才の滋賀の山脇上人がヘッドセットを耳にあて、特性のマイクを高座にすえて、しっかりとよく通るお声でおさとしになりました。歌あり、笑いあり、涙ありのご法話に時のたつのを忘れました。



山脇上人の晨朝のご法話

おつぎ運動指導員で四月に知恩院に入ったばかりの初々しい竹本上人のお見送りで、和順會館を後にして、



限定販売の清酒の試飲

二日目は京都市内の観光を楽しみました。まず、月桂冠大倉記念館を訪れ、日本酒の歴史について学んだあと、

利き酒を楽しみました。

その後、京都伏見を走る運河を十石船に乗って、資料館開門(こうもん)(運河の高低差を調整するための水門)を訪れました。

来年も「おつぎ信行奉仕を企画いたしますので、ぜひ、ご参加ください。」



十石船からの伏見の水路の景色

トピックス

境内地拡張

5月上旬

境内地南側に隣接していた田中ラジオ屋さんの土地・建物を大寶寺が購入し、建物を取り壊して更地にしました。

また、これにともない6月上旬に入り口と水吹き地蔵の間際に立っていた電柱を妙高寺側に移動し、庫裏脇の電柱もコンクリート製から金属製に取り替えました。

今後、玉垣および掲示板を西にずらし、入り口を拡張する予定で、なお、北門についても、五重相伝を迎えるにあたり、補修の予定があります。



南側の入り口が広がったので大型バスも、境内に駐車できまします。写真はおついでです。H17.5.31

案内

五重相伝申込受付

先に御案内のように、十月六日から十日にかけて大寶寺にて五重相伝を営みます。お問い合わせ、ならびに申込は寺までお願いします。

浄土宗福井教区檀信徒研修会

7月3日 午後二時より

武生市京町正覚寺において、福井教区檀信徒研修会が行われます。知恩院の御影堂に安置されてるお像と

こどものセミナー

楽しみながら、仏さまのことが学べます。情操教育に最適、希望の方は寺まで連絡して下さい。

○ こどもの集い

日時: 7月最終の週 (詳細未定)  
場所: 大野 善導寺  
対象: 小学3年から6年

○ こどもおてつき

日時: 8月20日  
~22日  
場所: 京都知恩院  
参加費無料  
対象: 小学4年  
~中学3年



知恩院集会堂にて H15.8

秋初穂のお願いについて

武生の町内のお檀家様につきまして、例年通り昨年の秋初穂を6月下旬から7月上旬の間に頂きに参上しますので、よろしくお願い致します。なお、来年からは2月の総会で決定され、先に御案内いたしましたように各戸五千円の護持冥加金、ならびに広さに応じた墓地管理料をいただくことになっております。



昨年7月、大野善導寺にご巡経なされた法然上人のご分身です。

寸分違わぬ法然上人のご分身をお招きして正覚寺にて法要を営みます。このご分身には皆さまが書写されたお名号をお納めすることになっていきます。参加費は二千円です。6月一杯までに大寶寺まで、お申込ください。なお、この件につきまして大寶寺役員のみならず、皆さまにはすでに往復はがきで案内済みです。

山川草木悉有仏性

私たちは呼吸をし、体内に酸素を取り込むことができなければ、一刻も生存できません。

ところが、生物が発生したとき、46億年前の地球の空気中の酸素は1%にも満たなかったそうです。金星や火星と同様に、当時の空気は二酸化炭素が主成分で、その濃度は90%以上、なんと現在の十萬倍の濃さだったそうです。

アメーバのような微生物から始まった植物の命の連鎖の中で、空気中の二酸化炭素(CO2)は分解され、炭素は石灰石などの個体として大地に残り、酸素が空気中に放出されました。このようにして、46億年かけて酸素濃度が20%以上もある現在の大気ができあがったのです。(ちなみに現在の二酸化炭素の濃度は0.03%)

さて、仏教は山川草木悉有仏性(山も川も草も木もみんな仏である)と説きます。

仏教の教えに従えば、太古から現在まで山河に自生した恒河沙数

(ガンジス川の砂の数ほど多く)の植物は、すべてが仏さまだ、ということになります。人間をはじめ、さまざまな動物が生きていけるのに十分な酸素が大気中にあるのは、そのような仏さまの働きの「おかげ」に他なりません。

一息、一息が仏さまの「おかげ」であることを自覚し、この世に生を受けたことを感謝して日々を過ごすことが、幸せな人生をおくるためには大切なのではないのでしょうか。

【参考】

恒河沙数(ガンジス川の砂ほどの数)ということばは佛説阿彌陀經にも登場します。その中で東、西、南、北、上、下の六方位の恒河沙数諸仏が、阿彌陀様の本願である口称念仏の尊さを賞賛していると説かれています。

悦 應



庫裏南側の庭に咲くやまぼうしの花 H17. 6. 5